

境界性パーソナリティ障害の診断基準

対人関係、自己像、感情などの不安定性及び著しい衝動性の広範な様式で、成人期早期までに始まり、種々の状況によって明らかになる。以下のうち5つ（又はそれ以上）によって示される。

	チェック
(1) 現実に、又は想像の中で見捨てられることを避けようとするなりふり構わない努力 注；基準5で取り上げられる自殺行為又は自傷行為は含まない。	
(2) 理想化とこき下ろしとの両極端を揺れ動くことによって特徴づけられる、不安定で激しい対人関係様式	
(3) 同一性障害；著明で持続的な不安定な自己像または自己感	
(4) 自己を傷つけられる可能性のある衝動性で、少なくとも2つの領域にわたるもの（例；浪費、性行為、物質乱用、無謀な運転、むちゃ食い） 注；基準5で取り上げられる自殺行為又は自傷行為は含まない。	
(5) 自殺の行動、そぶり、脅し、又は自傷行為の繰り返し	
(6) 顕著な気分反応性による感情不安定性（例；通常は2～3時間持続し、2～3日以上持続することは稀な、エピソード的に起こる強い不快気分、苛立たしさ、又は不安）	
(7) 慢性的な空虚感	
(8) 不適切で激しい怒り、又は怒りの制御の困難（例；しばしば痲癩を起こす、いつも怒っている、取っ組み合いのけんかを繰り返す）	
(9) 一過性のストレス関連性の妄想様観念又は重篤な解離性症状	

※本文は、「DSM-IV-TR 分類と診断の手引き」（医学書院）を参照しています。